



令和7年度 若年教員対象体験活動指導者研修

趣旨

小学校・中学校の若年教員が、集団づくりに役立つレクリエーションや自然体験活動等の指導に関する基本的な知識や技能を習得し、教員としての見識を広げ、若年教員同士の連帯感の高揚を図る。

対象

福岡教育事務所管内の
小・中・義務教育学校若年教員
1～7年目までの教諭

日程・参加者

A日程：7月29日（火）・30日（水）参加者44名（小学校29名・中学校14名・義務教育学校1名）
B日程：8月 5日（火）・ 6日（水）参加者27名（小学校22名・中学校5名）

スケジュール

	9:00	9:20	9:30	10:30	12:00	13:00	16:30
1日目	受付	開会 行事	講話	演習①	昼食	演習②	
2日目	9:00	演習③		11:30	実習	14:00	閉会 行事

講話

「宿泊研修の企画立案と野外活動の安全管理」

対話を通して企画立案を行う際のポイントやファシリテーション的な視点を取り入れた安全管理の方法について学びました。



演習①～③

「良好な人間関係づくりをめざすアクティビティ展開」



1日目は「体験者」の視点でアイスブレイクや課題解決を目指すアクティビティ、活動のふりかえりを行いました。2日目は「指導者」の視点でアクティビティについて理解を深め、体験学習サイクル、ファシリテーションの手法について学びました。

実習

「防災食・キャンプ飯づくり」



災害時でも調理可能な湯せんカレーをグループごとに調理しました。また、調理中は「ネガティブ発言多い」「リーダーシップをとる」など与えられた指令カードを演じながら調理を行いました。

閉会行事

「クロージング」



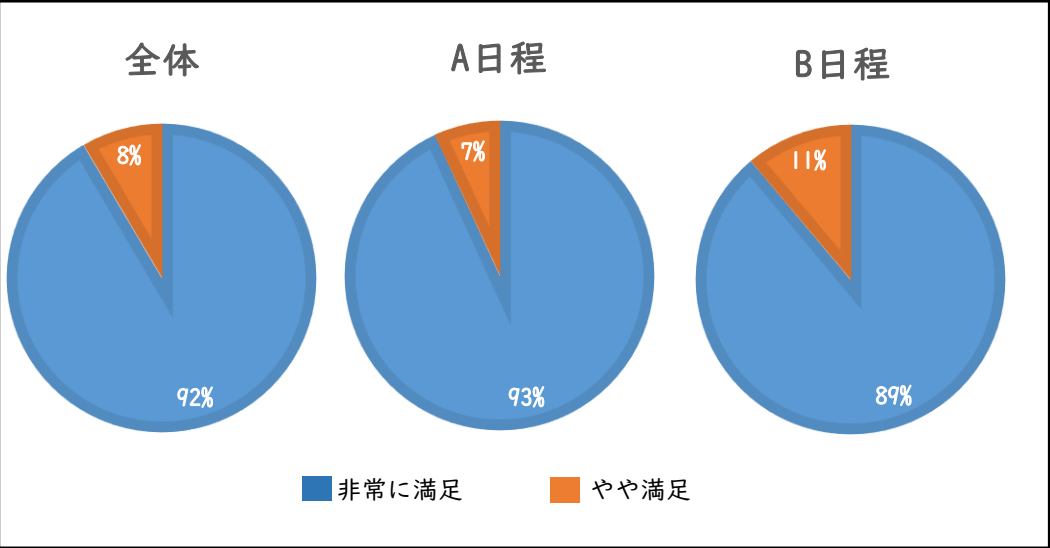
2日間で体験したこと、学んだことの中から夏休み明けに実践してみたいことをグループごとに共有しました。

参加者アンケート

研修全体の満足度

研修全体の満足度	全体		A日程		B日程	
非常に満足	65	92%	41	93%	24	89%
やや満足	6	8%	3	7%	3	11%
やや不満	0	0%	0	0%	0	0%
不満	0	0%	0	0%	0	0%

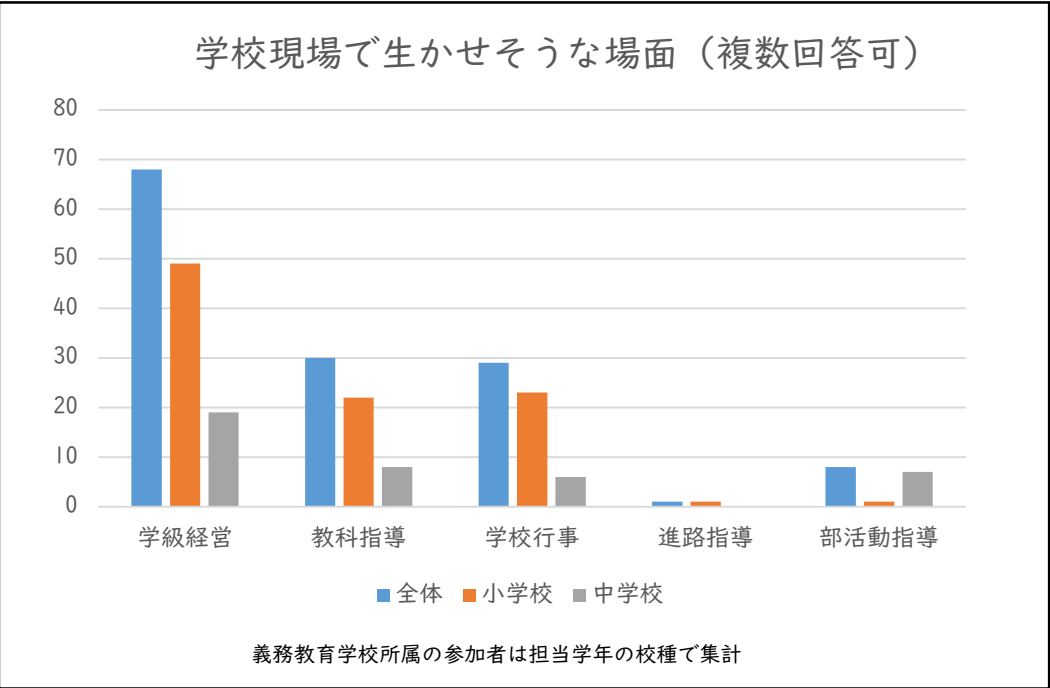
(人) (%)



研修を受講して、学校現場で生かせそうな場面をお選びください。(複数回答可)

学校現場で生かせそうな場面 (複数回答可)	全体	小学校	中学校
学級経営	68	49	19
教科指導	30	22	8
学校行事	29	23	6
進路指導	1	1	0
部活動指導	8	1	7

(人)



参加者の声

- ・学級の中で様々な目的に合わせて実施できる活動の具体例を体感的に学ぶことができ、すぐにでも自分の学級で行うことができるものがたくさんあった。
- ・座学ではなく、実践を伴った活動が多く、とても分かりやすかったです。参加していて、自分自身も楽しかったです。
- ・学校では学ぶことのできないアクティビティの方法を実践し、学ぶことができた。教えてもらうだけでなく、実体験を伴っていたから。普段関わりのない教員との関わりが多くあった。
- ・実際にアクティビティをやってみて、徐々に初めてのメンバーとも慣れていき、体験者として楽しむようになりました。そこで教師の帽子を被ると、ファシリテーターとしての視点がわかってきて、体験者になりきった分、学びが深まったと実感しています。
- ・多様な種類のアクティビティやその理論をこの二日を通してたくさん教えていただきました。特に印象に残っていたことが、協力していない、やっていない人はいなくて、その人なりの関わり方を選択するという考え方が学校とは違う新鮮な考え方で、子どもたちに対してもそのような場面が必要なのかなと考えました。またチームで行動することも多く、個からチームになる流れを自分で体験することができた。
- ・席替えをして新しい隣の子や班になった時に、関係作りのきっかけとして取り入れることができそうな活動がたくさんあった。話すことが苦手な児童でもできそうな活動もあったので、色々な種類のアクティビティを知っておくことが大切だと感じた。夏休み明けは学級がだらけてしまいがちだと思うので、楽しい活動をしながらメリハリをつけていきたいと思う。
- ・PDCAサイクルはよく耳にしていましたが、新たに体験学習サイクルについて学ぶことができました。私は小学2年生を担当しているので、実際に体験してみたら課題を見つけたり振り返りを行ったりする体験学習サイクルは、児童がより取り組みやすいのかなと感じました。これからの学習の中に取り入れていきたいです。
- ・本研修を通して、私は「実際に体験すること」の大切さを強く実感しました。これまでの自分は、体験者側の視点を十分に踏まえずに活動を計画していたことに気づかされました。また、「活動は全員にやらせなければならない」という形式的な考えに陥っていたことにも気づきました。しかし、本当に大切なのは、活動自体を行うことではなく、その過程で何を感じ、何を学ぶかであるということを改めて実感しました。ファシリテーターとして、今後は「ただ活動をさせる」ことが目的ではなく、「どんな姿を子どもたちに育んでいきたいか」という目的を持って、活動を計画・実施していきたいと考えています。